2024年度大阪府訪問看護実践研修
教育ステーション事業実績報告

中河内ブロック(東大阪市・八尾市・柏原市)
わかくさ老人訪問看護ステーション

目標

- 多職種向けACPを成功させ、地域での定着を促進する。
- 医療安全についての知識を深め、態勢の整備、職場環境の整備をすることが出来る。
- コンサルテーション事業の周知と活用を増やす

計画

(1)研修事業・・・・・・・・・・集合研修１回・ZOOM研修1回
ハイブリット研修回
(2)府民への相談支援事業・・・なし
(3)訪問看護体験研修事業・・・2件(看護師等1名、看護管理者等1名)
(4)電話相談事業・・・・・・・8件
(5)コンサルテーション事業・・電話　なし　対面　6件

実践内容

(1)研修事業・・・・・・・・・集合研修１回、ZOOM研修1回
ハイブリット修1回開催
(3)訪問看護体験研修事業・・看護師　11名　　管理者　1名
(4)電話相談事業・・・・・・8件
(5)コンサルテーション事業・・電話　2件　　対面　2件

(1)研修事業

① 2024.6.19　ハイブリッド研修
　テーマ：看護のリフレクション

　講　師：テンダーケア訪問看護ステーション
　　樫木　政子　氏

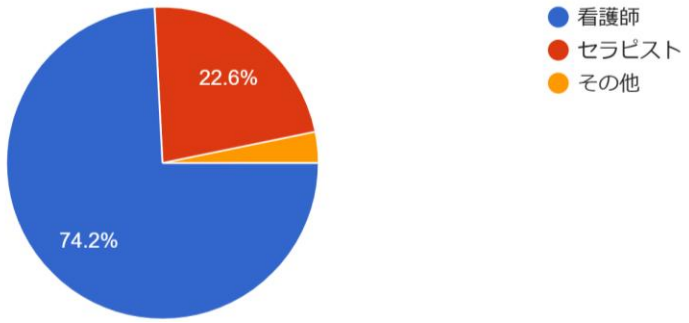
　場　所：河内医師会訪問看護ステーション
　目標人数：集合20名　ZOOM30名
　参加者：31名（集合11名ZOOM20名）

(1)研修事業

① 2024.6.19　「看護のリフレクション」アンケート結果

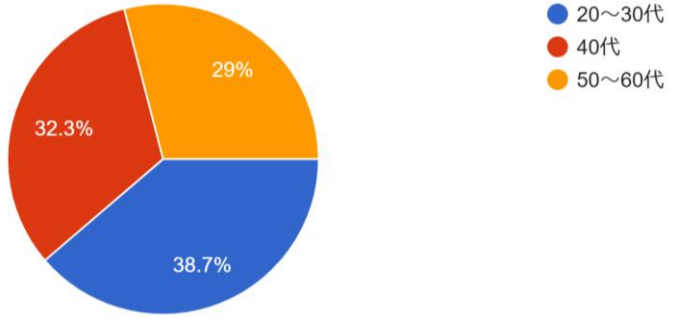
1.職種

31 件の回答



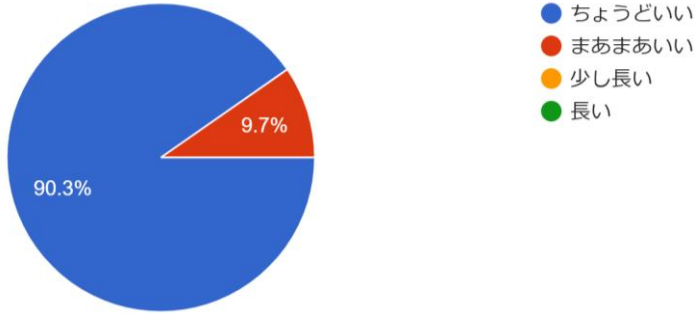
2.年齢

31 件の回答



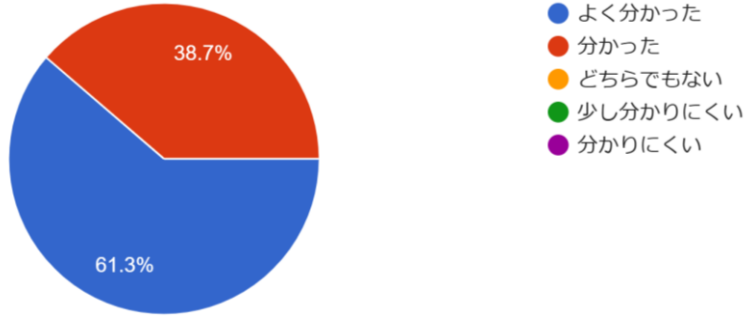
3.研修時間はいかがでしたか？

31 件の回答



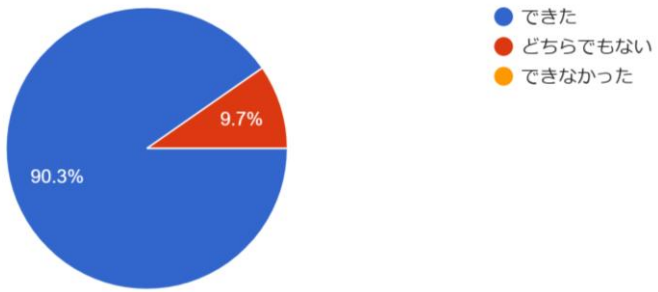
事例検討のための抄録の書き方についてどうでしたか？

31 件の回答



参加目的は達成できましたか？

31 件の回答



- できた
- どちらでもない
- できなかった

(1)研修事業

②2024.7.20(土)集合研修
テーマ： ACP支援実践人材育成研修
講　師：佛教大学
　　濱吉美穂氏(ビデオ研修)
　　わかくさ老人訪問看護ステーション
　　小阪サテライト　北野典子氏
場　所：若江岩田駅前市民プラザ6階
　　多目的ホール
参加者：48名

2024年度　大阪府訪問看護実践研修事業　教育ステーション事業

「令和6年度大阪府人生会議相談対応支援事業」
一般社団法人 大阪府訪問看護ステーション協会
中河内ブロック教育ステーション
わかくさ老人訪問看護ステーション

ACP 人生会議

「人生会議（ACP）」の実践に必要な基本的概念や知識・方法がわかる

「人生会議(ACP)」支援実践人材育成研修

【開催日時】 2024.7.20(土)13:00～16:00
【場　　所】 若江岩田駅市民プラザ6階多目的ホール

参加費 無料

【定　　員】 50名（定員超過の場合、受講者の調整をさせていただきます）

【対 象 者】 地域包括ケアシステムに関わる医療・介護・福祉専門職
（看護師、セラピスト、MSW、ケアマネジャー、医師、看護学生等）

【プログラム】
・講義
講師：濱吉　美穂氏（動画）
（佛教大学保健医療技術学部　看護学科　老年看護学領域）
・グループワーク（ロールプレイ）

【お申込み】
右のQRコードからお申込み下さい

【申込締切】7.13(土)

申込/問合せ先：わかくさ老人訪問看護ステーション
担当者：星野・村井
電話：072-984-9781　　fax：072-980-2198

(1)研修事業

研修③ 2024.10.28(月)ZOOM研修

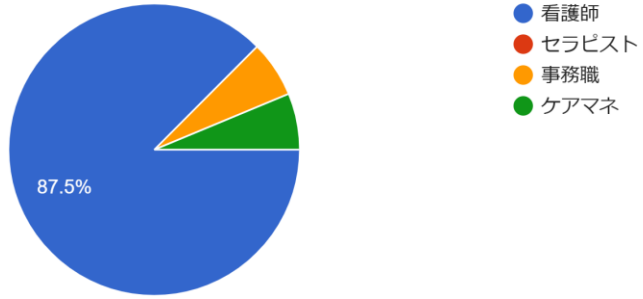
テーマ：訪問看護における医療安全
講　師：若草第一病院
　　感染管理認定看護師　原田敦子氏
目標人数：30名
参加者：16名

(1)研修事業

③ 2024.10.28　訪問看護における医療安全　アンケート結果

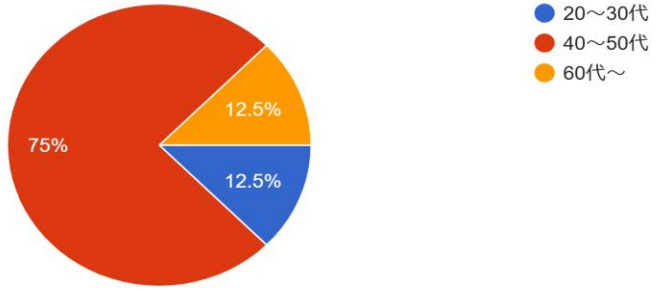
1.職種

16 件の回答



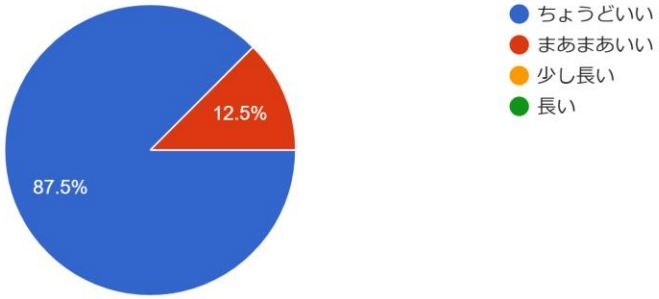
2.年齢

16 件の回答



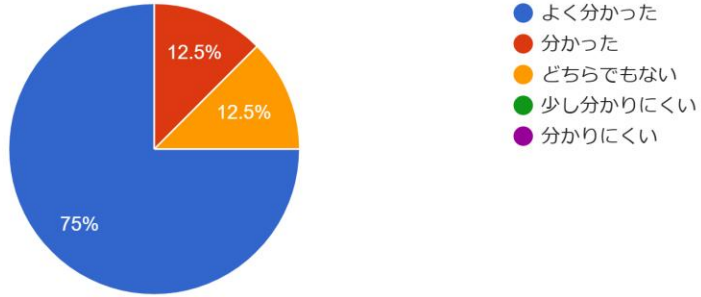
3.研修時間はいかがでしたか？

16 件の回答



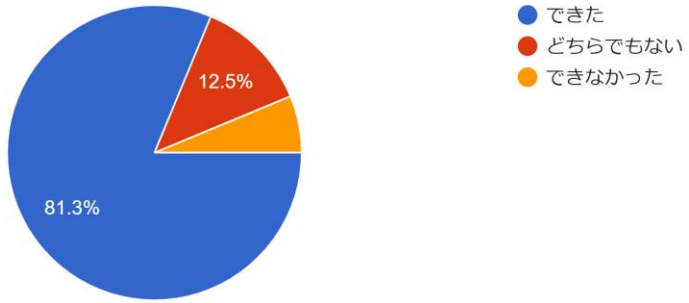
4.訪問看護における医療安全についてはどうでしたか？

16 件の回答



5.目的は達成できましたか？

16 件の回答



- できた
- どちらでもない
- できなかった

(1)研修事業を通じての気づきと課題

- 訪問看護が対象の様々な研修が増え、集合研修の参加が難しくなっている印象、ブロック内での特性を活かした研修企画により、地域内で連携や運営に活かせる内容を取り入れる工夫が必要である。
- 抄録研修では、看護師が抄録の書き方を学びなおし学術大会への抄録提出に役立てるよう企画しており、実際の抄録の提出に役立った。
- 医療安全研修は訪問看護ステーションでも必要知識として役立つものであるが、訪問看護に特化している事例を増やした方がより良いものとなった。

(3)訪問看護体験研修事業

１.体験　(目標人数　1人・参加人数　11人)

対象者：訪問看護に関心のある専門職や学生看護師、地域の看護師

２.管理者体験(目標人数１人・参加人数　1人)

対象者：看護管理者等

時間	内容	備考
9:00~10:00	朝礼・オリエンテーション	自己紹介・訪問看護業務・説明・自施設の特徴・感染対策・物品の管理など
10:00~12:15	体験：訪問業務	同行訪問
	管理者：管理業務の見学	業務管理・育成管理・
12:15~13:15	昼食・休憩	勤務管理など
13:15~16:15	訪問（1～2件)	同行訪問
16:15~17:00	事業所にて振り返り	記録・報告書

(3)訪問看護体験研修事業

看護師体験研修の気づき

- 本年度は急性期病棟の看護師が連携目的で訪問看護ステーションの体験研修を複数名申し込まれ、在宅緩和ケアの実際、CVポート管理、回復期を経た在宅生活、心不全の管理、多職種連携の実際でを学ばれた。短期間で多くの利用となったため、協力ステーション内で協力し受け入れを行った。病院と在宅の情報交換ができ、相互の学びに繋がった
- 新しく新設されるステーションの管理者と看護師の体験研修では、在宅看護の実際をみてもらえ、新設後の看護だけでなく今後の関係作りにも活かせた
- 在宅看護の実際を体験され、今後の在宅看護の必要性や連携の在り方、また今後の就職先としての興味が深くなる意見を多く頂いた。

全体の課題

- 病棟の体験受け入れが多数となったため、相互研修としての受け入れに変更する必要がある
- 体験研修で他ステーションを自ステーションの看護の幅を広げることにも役立てたい

(4)電話相談事業

・目標8件・実回数　8件
　受付曜日　月曜日～金曜日
　時間　　9：30～17：00
　対象　　看護職・他専門職（セラピスト、介護、福祉職）
・利用：クリニック1件　訪問看護ステーション5件　ケアマネージャー2件
　別表に該当するかの問い合わせや、報酬関係が7件
　訪問看護ステーションの新規開設に伴う事業運営について

・質問ではすぐに回答が欲しい場合が多く、FAXでの問い合わせは0件。

設立後2、3年経過するスーションからの基本的な内容の繰り返しの問い合わせが多く、FAXやメールの時間はなくすぐに返答が欲しいというものも多く対応に追われた。

(5)コンサルテーション事業

- 電話サポート
  目標　0件　実績　2件
- 対面サポート
  目標　6件　実績　2件

- 利用状況

皮膚・排泄ケア　3件(ストマトラブル1件、褥瘡2件、　精神疾患利用者対応1件)

(5)コンサルテーション事業の気づきと課題

・精神疾患のコンサルテーションでは、専門的知識をもつ看護師に丁寧なアドバイスを受けることで、問題解決に繋がった。皮膚・排泄ケアでは処置内容、回数やポジショニングなどの指導を受けることで改善への対策に繋がっている。

気づきと課題

専門性の高い認定看護師のコンサルテーションを利用することで、現状を振り返ることができ今後の看護の課題が明確になった。

専門的な知識を得ることで利用者のQOLの向上や訪問看護ステーションの学びとなるため、今後も活用の拡大を目指していく必要があると感じる。

(7)地域の特性・資源の把握

- 中河内ブロックで定期的な管理者会議や役員会により連携は取れている。しかし管理者会に参加する管理者は一定で今まで参加していないステーションや新規開設ステーションの参加を増やし、協力ステーションや役員への積極的な参加を促していく必要がある。
- 管理者向けの研修やグループワークなどの工夫がなされている。教育ステーションの広報活動は毎回時間を頂けている。
- 次年度、ブロック内の教育ステーション事業担当事業所が二ステーションとも交代となるため協力ステーションとしてサポートていく。

目標の評価

1. ACP支援実践人材育成研修では、多職種によるACPの基礎知識の習得に繋がった。実際に活用に繋がっているとの報告もあり、次年度も地域市民へのQOLを考えた治療・ケアの充実を図るためACPの拡大が期待できる。
2. 医療安全研修はブロック会での希望が多いものであった。基礎知識の学びなおしに繋がり、各ステーションでの医療事故防止に繋がることを期待したい。
3. コンサルテーションを通じて、知識共有ができる場を作り訪問看護師の質の向上に努めた。利用数は計画に達していないため、広報の工夫が必要。

教育ステーション事業の効果と課題

- 教育ステーション事業を3年間担当する中で、協力ステーション、ブロック内の訪問看護ステーションの協力を得られ目標を達成することができた。
- 研修参加目標人数の獲得は容易ではなく、繰り返しの広報や協力ステーションへの依頼となる場合もあった。無料のZOOM研修やアーカイブ研修が増えている中で、他ステーションとの交流や意見交換など情報の共有の場としても活用でき、広報でも伝えいくことで活用を増やしていけたらと考える。
- 新規協力ステーションの開拓が進まず、既存のステーション内での活動が続いている。今後も新たな協力ステーションを募り次年度以降の活動の拡大を目指す必要がある。